ステーション同士の協働を通じた人材育成と職員定着

～地方の訪問看護ステーションが抱える課題～

医療法人社団　心優会　訪問看護ステーション季実の杜
管理者　山田　瑞恵
一般社団法人北海道在宅ケア事業団　留萌地域訪問看護ステーション
管理者　谷口　ゆかり

1

はじめに

- 季実の杜訪問看護ステーションは、留萌市内にある医療法人季実の杜の併設として設立され、留萌南部地区（小平町～留萌市、増毛町）の広範囲で訪問を行っています。

職員体制：管理者含め7人　24時間対応体制を実施
地域の訪問看護ステーション　4か所（内　2カ所2025年に開設）
人口　留萌市17,810人（令和7年7月末）高齢化率39%（R2）
増毛町3,449人　（令和7年7月末）　高齢化率44%↑（R2）
小平町2,704人　（令和5年10月）　高齢化率40%↑（R2）
高齢化率は上昇し、労働力人口は減少、人材確保が困難

2

＜事例紹介＞

A 様 80歳代 女性

現病歴： 多系統萎縮症（2016年に診断）

既往歴： 2020年 右大腿部頸部骨折

2023年 誤嚥性肺炎繰り返しPEG造設

2024年 誤嚥性肺炎で繰り返す中、人工呼吸器使用。

2025年 気管切開しスピーチバブル装着したが、ナルコーシスのため人工呼吸器使用し、自宅退院

家族構成

80歳代の夫と娘さん、お孫さんと4人暮らし

退院当時は娘さんは仕事を辞めて介護に専念していたが、状態落ち着き仕事復帰。

日中は夫が介護している

3

病状の経過

2019年 Sクリニックの訪問リハ、訪問看護を利用していた。

2021年 Sクリニックの訪問看護ステーション閉鎖に伴い引き継ぐ

2023年 歩行困難、嚥下機能の低下あり誤嚥性肺炎で入退院を繰り返し、経管栄養ご家族にサクション指導も、さらに呼吸機能の低下があり気管切開。

2024年春 意識混濁あり入院し、人工呼吸器装着となった。

2024年5月 人工呼吸器装着のまま自宅へ戻ることとなった

4

協力することになった経緯

2021年ステーションから引き継いだ頃は、利用者数90名弱でスタッフは管理者含め9名で訪問していた。（24時間体制）

病状の変化に伴い入退院を繰り返していたが、ナルコーシスのため人工呼吸器での管理が必要となった。

2024年5月（退院がはっきり決まった頃） 4名と職員数が減り、人工呼吸器管理に対し経験が少ない職員からは不安の声が聞かれていた。そのため、留萌地域訪問看護ステーション管理者に事情を話し、退院後から2か所での訪問看護ステーションが協働し関わることになった

5

現在の訪問状況

月曜日：季実の杜訪問看護ST（摘便、皮膚確認、洗浄、ガーゼ交換、月2回回路交換、4週に1回バルン交換）

火曜日：訪問入浴

水曜日：留萌地域訪問看護ST（摘便、皮膚確認、洗浄、ガーゼ交換）

木曜日：留萌地域訪問看護ST（摘便、皮膚確認、洗浄、ガーゼ交換）

午後：訪問リハビリテーション

金曜日：季実の杜訪問看護ST（摘便、皮膚確認、洗浄、ガーゼ交換）清拭）

6

協働したことで得られたこと

1）人工呼吸器に関して、経験豊富な職員がいることで注意点など教えてもらうことが多々あり、また家族に対しても的確な返答をしてくれ、当ステーションとして相談できる場所ができ、職員は安心感をもち、職員の定着に繋がった。

2）皮膚が脆弱で、処置方法についてもアドバイスを頂いた。他の利用者さんにも応用できることがあり、 ステーション自体のスキルアップができ、人材育成に繋がった。

3）人工呼吸器の利用者さんは初めてだったが、特に問題もなく今現在も訪問を継続できている。

異なる2か所の訪問看護ステーションで1人の利用者さんを支援していくことは、
お互いのステーションの良いところを学び、利用者さんにとってよりよい看護を提供できる。
今後は、合同での研修会などを予定している。

7

留萌地域訪問看護ステーションの職員状況

職員体制： 常勤職員　3名（管理者含む） 非常勤　3名
ケアプラン相談センター併設 （管理者及び非常勤　1名がケアマネ業務）
今年5月に常勤1名が入職

以前から、当ステーションは職員数は訪問の需要に対し職員が不足し、設置法人の札幌、羽幌、旭川の訪問看護ステーションから、短期的な応援職員で対応してきた。転勤で留萌に来て入職する職員は、2年前後で再び転勤になる。現在は応援職員を貰わずに運営している。

安定しない人員体制のため、24時間対応体制を行ってこなかった。

職員募集の中 「留萌は吹雪と雪が多く、冬に車を運転すること、1人で訪問することへの不安」

8

季実の杜訪問看護ステーションへの依頼

尿道カテーテルが詰まりやすい利用者様に、臨時で呼ばれることが多くなり、24時間対応体制はしてないが、職員の電話番号が利用者に伝わり、連絡が入り、訪問する日が続いた

↓

困ったな・・・職員の負担感↑　利用者も不安・・・24時間対応のために応援職員？
24時間対応体制をしている訪問看護ステーションに頼もう！

↓

利用者様、ケアマネ、山田所長と了承を得て2か所で訪問するようになった。早朝などにも呼ばれるため、夕方に状況確認して、臨時で呼ばれる回数を減らせるように工夫。
当ステーションの困りごとが解決し、利用者様も安心できた。
それ以来、24時間対応が必要な利用者様には季実の杜訪問看護ステーションを紹介。

9

複数の訪問看護ステーションが協力し地域を支える

- **留萌南部の在宅診療等の状況**

  往診医　ほぼ無（長く経過を見てきたごく数人に限定）　利用者の主治医3割　旭川市・札幌市の医療機関

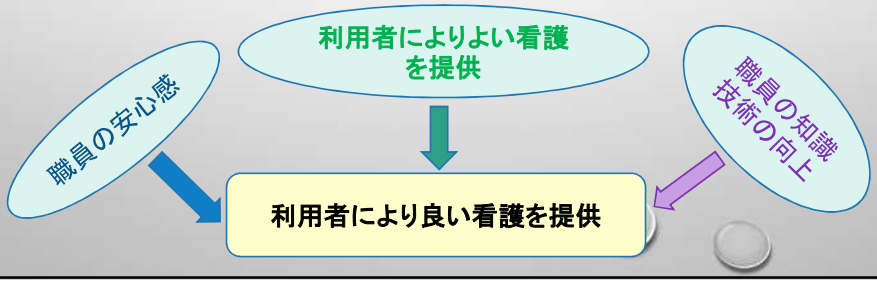
  留萌市立病院は出張医が多い（タイムリーに主治医に連絡がとれない）

- **当訪問看護ステーションの利用者へのかかわり**

  医療機関を持っている法人でなく、観察と看護判断に力を入れ、利用者の状況変化などに対応

  例）皮膚の発赤や水泡状態の処置　　例）気管カニューレから異常音の確認、カニューレ位置の確認

  ステーションの管理者同士で連絡を取り合い、それぞれのステーションの弱点を補完



10

おわりに

地方は、病院もステーションも職員がいなく、自ステーションだけでは
「指定基準の常勤換算２．５」を確保できない時もあった
利用者様に訪問看護を提供できたのは、季実の杜訪問看護ステーションとの
協働があったから。 少人数のステーションでも、同じ地域のステーションで
支えあうことはできる。 職員が少ないと研修にも行けない。休みも取れない。
2つのSTが協働することで職員教育、
職場環境の改善にも繋がった。
今後もお互いに協力し留萌南部の
訪問看護を支えていきたい。

留萌の夕日

ご清聴ありがとうございました